



Eblo Report 2014

Communication on Progress

～社会的責任活動の報告～



ニッセイエブロ株式会社



“Next Innovation”の持つ意味

武蔵野大学 環境学部 教授 佐々木 重邦 氏

新たなコンセプトである“Next Innovation”には、未来に向かって新たな価値を創造していくという強い意志と安定感を感じます。浮ついたものではないその安定感は、ニッセイエプロ株式会社が真摯に取り組んできた事業活動の歴史と、これまでお付き合いさせていただいた私自身の安心感からくるのかもしれません。

Eblo Report は今回で5回目の発行、18名の学生が関わってきました。この活動を通じて学生は多くのことを学び、社会人としての土台をしっかりと築き上げ、その上にたって次への挑戦を続けています。過去から未来に繋がり、周りの支えのもとに成長し、そして挑戦し続けるというニッセイエプロ株式会社の歩みを、学生も歩んでいる気がします。

最後になりましたが創業70周年のお祝いを述べさせていた

この報告書について

例年同様、ニッセイエプロ株式会社が加盟している国連グローバル・コンパクトへ提出する活動報告書(CoC[Communication Progress])の制作にあたり、武蔵野大学環境学部佐々木重邦先生(3年生3名、2年生2名)とニッセイエプロ株式会社との協働により企画から制作を行いました。

そして本レポートは同大学 環境プロジェクトのECO REPORT WAY21プロジェクト(※)により分析・評価されました。

(※)企業が発行する環境・CSRレポートを学生が独自に作成したり、クルート視点の21の指標に基づき評価・分析し、発行企業へ報告・意見交換を行う活動。



Next Innovation

ニッセイエプロ株式会社のCSRへの取組みを記載した「Eblo Report」も、次世代を担う学生と協働企画・編集し、本年度で5回目の発行となります。

Eblo Report 2014 では、本年度の編集方針を学生との協議を重ね、「“Next Innovation” 新たな価値創造を目指して」と決めました。

「Innovation」とは、物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」(を創造する行為)のことを意味します。

ニッセイエプロ株式会社は1944年に創業以来70年にわたり、このInnovationを繰り返しつつ、発展してきました。

さらに、今後、変化の激しい次代に適応し、持続可能な企業への成長戦略を考えると、大切なキーワードといえます。

そして“Next Innovation”を実現するためには、今一度、私たちが関わるすべての皆様と真摯に向き合い、対話し続けることが重要であると考えています。

創業70周年を迎えることができたことは、その皆様による支えがあったからこそであり、感謝は言葉では言い尽くせません。

私たちは、この「Eblo Report 2014」を通して、“次なる変化、挑戦、そして今後の成長へ”という、新たな価値創造を目指してまいります。

新たな価値創造を目指して 「ステークホルダーとの対話」からイノベーションの新風を

Contents

目次

特集1 社長インタビュー

創業100年企業を目指して

P.4



【事業案内】

お客様にとって最適な

コミュニケーション活動を創造します。

P.6

国連グローバル・コンパクトへの参画。

P.7

【コンプライアンス遵守】対話／インタビュー
遵守から信頼へ。

P.8

【人権・労働環境】対話／インタビュー
制度より風土を。

P.9

【環境への取組み】対話／インタビュー
環境を利益に。

P.10

個別から統合へ。
統合マネジメントシステムの運用へ。

P.11

特集2 未来座談会

コミュニケーション力で
イノベーションを起こす!!

P.12



対話から協働へ。

ステークホルダーの皆様よりエール。

P.14

第三者意見

学生からの評価
編集後記

P.15

「最も強いものが生き残るのではない、
最も変化に耐えられるものが生き残るのだ。」
チャールズ・ダーウィン

代表取締役社長
亀田 修平



特集1 社長インタビュー

創業100年企業を 目指して

ニッセイエプロ株式会社代表取締役社長 亀田 修平

(聞き手) 武蔵野大学 環境学部2年 城戸 愛美
武蔵野大学 環境学部2年 小菅 萌生



●城戸 創業70周年を迎え、ここまで様々なステークホルダーの皆様の支援もあって現在のニッセイエプロがあると思います。これからさらなる持続可能な発展を目指す貴社はステークホルダーの皆様を引き続き、そしてさらに大切に、経営に活かしていくことが大切であると考えます。

今回はステークホルダーの皆様からいただいたコメントも交えながら亀田社長にインタビューさせていただきたいと思います。

●小菅 創業70周年を迎えて、どのような心境なのか、又、日々お仕事をされている中で、亀田社長ご自身が何か気を付けていることがございましたら、お聞かせください。

●社長 70周年を迎えることが出来たことについては、誇りに思っております。創業してから70年存続するというのは確率として極めて少ないことですから、社員の皆さんも誇りにしてよいことだと思います。会社を経営する上で気を付けていることは、信用を大事にすることです。信用されれば、お客様に信頼して安心して付き合ってもらえますので、信用というのは一番大事だなと思いますね。

●小菅 今号のトップインタビューには貴社のステークホルダーの皆様よりコメントを頂だけに促れず、目に見えない「コミュニケーション」の領域に強みを持っていると感じております。と、コメントをいただきました。亀田社長がコミュニケーションで気を付けていることは何かございますか。

●社長 どんな人でも公平に意見聞く、わかりやすく話すということは大変だと思います。ある政治家の方がおっしゃっていますが、まず結論から入ることが肝要です。そして、その理由はせいぜい挙げて3つ。さらに相手にわかりやすく伝える上で、会話中の「間」は大事ですよ。間の取り方次第で伝わり方はだいぶ変わると思います。

●小菅 今回のニッセイエプロ女性社員の皆様からもお話を伺いました、昨今、特に話題になるテーマですが、女性が社会でさらに活躍していくためのお考えについてお聞かせ願いたいです。

●社長 女性だから優遇するとか、男性だから、こうあるべきである云々ということは基本的な考えではありませんし、まったく男女に対する区別はありません。ただ当然、出産や育児などにはしっかりと対応させていただきま

く企画を考えました。頂いたコメントを紹介しながら、お話を伺います。

貴社OBのお二人より貴社の特徴としてどのような点がありますか、という問いに対してお二人とも『堅実な会社』と述べられております。具体的にどのような部分が堅実な会社だと思われていますか。

●社長 私は身の程を超えたことをせず、そのかわり、確実に階段を一步一步上がっていつて着実な成長を目指すことが大事だと思っています。名前に因んで言えば、「亀の歩み」かもしれませんが、そのように確実に。うさぎと亀の話のようにですね。それが長期的に見て、正しい方向だと思っています。一步一步、着実に計画して実行し、達成していくという実行力と忍耐強さ、それと同時に夢と希望も大事です。それらを合わせ持ちながらバランスをとって、早すぎず、遅すぎず確実にやってきた、そしてこれからもやっていく、それが当社かなと思います。

●城戸 次に印刷を発注する協力会社の営業担当者よりコメントをいただいております。以前は、モノクロを中心とした印刷製品をご提供してきた私どもが2001年にカラー印刷機を導入した時の頃です。ニッセイエプロ様には

また、機会は均等に設けていて、公平に評価していると思っております。

男性の部下を積極的にリードしていく女性

がどんどん出てくることも大歓迎です。

●城戸 これも重要なテーマと思いますが、企業経営において環境問題は今や避けては通れない問題です。企業としての取組みをステークホルダーの皆様に対して伝えていく上で何が大切であると考えていますか。

●社長 当社はISO14001を取得しており、業務に融合させたマネジメントシステムとして取組んでおります。その中で当然ステークホルダーの人たちの協力がなければできないものもあります。海外の方より、よく言われますが、日本はきれいな水、汚染されていない土、澄んだ空気などの自然は「豊さ」である。これは我が国の誇るべき部分だと考えています。そのような経営環境の中、私たちは事業を通じた環境保全、環境配慮、そして環境貢献について、利益の拡大と両立させ、同時に進んでいく取組みを追求していきたいと考えています。

マネジメントシステムで言えば、環境だけでなく、品質マネジメント、情報セキュリティマネジメント、プライバシーマークとリンクさせた

毎日のようにカラー印刷の設備を使っていたきました。貴社からの作業伝票がない日はないという状態で、想像以上の多くのお仕事を頂戴したことが思い出です。時には当社工場まで出向いてくださり、色々なご指導やアドバイスをいただきました。当社の現場では今でも同時に教わった様々なことを糧として仕事に活かしていることを確信しております。と。さらに、『特に貴社の制作部門は他社より秀でて、充実した体制であると評価させていただいております。』との事でした。そこで制作部門のアピールポイントや特徴などお聞かせいただけたらと思います。

●社長 技術革新、イノベーションってありますよね。世の中もどんどん変化して、特に現在はIT時代となり、さらに変化しています。そのような世の中の流れ、それからお客様のニーズというものを常に把握しながら、極力それに対応していくということについては努力してきたと思っております。企業ですから変化に対応することは基本中の基本ですが、特にクリエイティブにある問題解決力とITという情報通信力を融合させ、常に高いレベルを目指してきました。それはある意味で同業者よりも先駆けて力を入れてやってきたということがあるかもしれません。

「統合マネジメントシステム」の構築も目指しています。

●城戸 最後の質問になります。貴社が今後さらに会社を発展させていく上で、ステークホルダーの皆様に関係について、お考えをお聞かせください。



●社長 創業70周年を迎えて、このままでよいかと言いますと、当然ながら、決してそのような考えはありません。毎年、確実に継続的な改善をしていかないと現状維持も難しいとみています。

松下幸之助さんが、「3%のコストダウンは難しいが、3割はすぐできる」と仰っています。今までの延長線上で物事を処理するということ、そして、一見、無理に思えるようなことでも、とにかく深く考えてから結論を出せということです。発想を変えることも必要です。ただ、そのような時に働いている人は、一人ではどうにもならないことも出てくると思います。したがって、さらに個々で能力を高めていく、そしてチームとして力を結集していく必要があると思います。そのためには研修を行うなどの機会

●小菅 永年、貴社とプロジェクトで協働してきた大学教授よりコメントが寄せられています。『学生が企業各社様の環境報告書やCSR報告書を評価提言するという活動に日ごろから、ご協力いただきありがとうございます。学生に対して貴社の貴重なお時間を割いていただいて、とても感謝しています。今後とも大学生を対象に教育的視点を継続していただきたいと思います。』との内容です。さらには『学生だけではなく大人に対しての「持続可能な社会構築のための教育」、「社会的企業の理念」を学ぶ教育』と、そのためのネットワークづくりなど行っていかれてはどうか』とのご提案もいただいています。それに対して亀田社長はどのように考えていらっしゃいますか。

●社長 全く異論はありません。大学と当社では協働実績がありますが、社会人を対象としたときにどのように協働するか等が課題になることでしょう。しかし、テーマについて議論し、実践していくことは必要なことだと思います。社会貢献になるご提案は私たちの理念と一致するものであり、大いに期待できます。

●城戸 学生と貴社が協働編集してきた本Eblo Reportプロジェクトの学生OBからは『ニッセイエプロ様は、目に見える結果や収益

を作ることも必要だと思いますが、最後はやはり、自分のミッションにベストを尽くして行うことです。一人ひとりがさらに結果へ責任を持つるようになるのではないかとためです。

ステークホルダーの皆様に対して、これも、特に当社の社員に対してになりますが、自分の価値を高めていってほしいです。お客様による会社の評価は最終的に社員に対する部分もあると思います。お客様のお役に立てるような人材になることが大事だと思います。かねてより申し上げてきた「事業とは奉仕である」の言葉の通りお客様に奉仕して新たな価値を創造し、与えられるようになってもらいたい。長寿企業の共通点は、常に研究が行われていること、あとはステークホルダーの皆様との関係を大事にされていること、お客様や協力会社の皆様に感謝することだと思います。

次は創業100年。自身をさらに変革させることができる優秀な人材を育てて、世代交代していく。それが次のステージへの私の意気込みですね。

●城戸・小菅 近い将来、社会人となる私たち学生の私たちにとっても、大変貴重なお話を伺えました。本日はどうもありがとうございました。



小菅@kosuge

社長のインタビューを通して貴社の社風、そしてステークホルダーの現場の声を聞けたことはとても貴重な経験であり、自身の人生の大きな財産となりました。大学2年生のうちからこのような機会を設けてくださり感謝申し上げます。

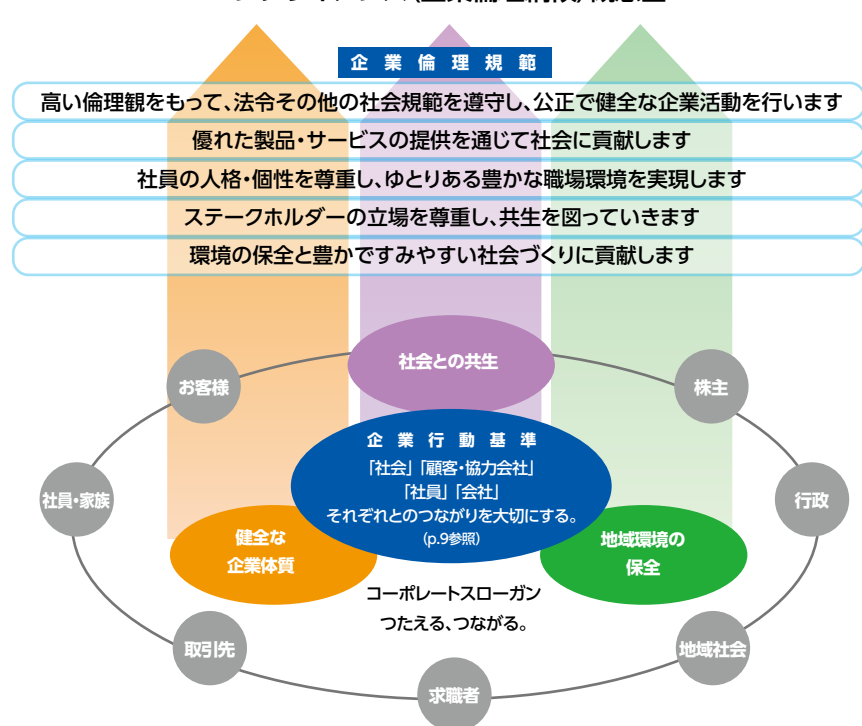


城戸@kido

社長に直接インタビューし、その内容をまとめ、編集させていただきました。インタビュー前に担当者同士で何度も内容を確認したことや、社長に緊張しながらも一生懸命インタビューを行ったことはよい思い出です。

	人 権	企業は、 原則1：国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2：自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
	労働基準	企業は、 原則3：組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則4：あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5：児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6：雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
	環 境	企業は、 原則7：環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8：環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9：環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
	腐敗防止	企業は、 原則10：強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

コンプライアンス(企業倫理綱領)概念図



企業行動基準

会 社					社 員					顧客・協力会社					社 会																										
項目21	知的財産権の保護	項目20	情報システムの適切使用	項目19	会社資産の適切使用	項目18	企業秘密の管理	項目17	適正な会計処理	項目16	就業規則の遵守	項目15	労働関係法の遵守	項目14	職場の安全衛生維持	項目13	差別的取扱い禁止	項目12	プライバシーの保護	項目11	社員の人格・個性の尊重	項目10	適正な宣伝・広告	項目9	常識的な接待・贈答	項目8	機密情報の取扱い	項目7	顧客・協力会社等との 適正取引	項目6	優れた製品・サービスの提供	項目5	社会貢献への参加	項目4	企業倫理の徹底	項目3	環境保全への努力	項目2	反社会的勢力と関係しない	項目1	法・社会規範の遵守

2014年の取組みについては
対話／インタビューを通じて、各活動を報告します。

国連グローバル・コンパクトへの参画。

「コミュニケーションを通じて社会に貢献。」
ニッセイエプロ株式会社は2010年1月6日、国連グローバル・コンパクトへ参画して5年。
国連の提唱する「グローバル・コンパクト10の原則」を私たちの「企業倫理綱領」に盛り込み、
21の「企業行動基準」に展開、実践に努めています。

事業案内

お客様にとって最適な

コミュニケーション活動を創造します。

広報PR・広告宣伝・販売促進に必要な 全てのコミュニケーションを構築

メディアはデジタル化の進展と共に多様化し、企業のみならず個人も積極的に
情報を発信しはじめました。
情報は加速度的に氾濫し、まさに玉石混交の状態です。
こうした複雑化したコミュニケーションの世界で私たちは、「伝えたい思い」を
「伝えたい人」に「繋げ」ます。





「産休育休を取っても戻ってきている人が少ない」
交流して、フオーする風潮がある」
現在、一般的には妊娠・出産を機に退職した理由として、「勤務時間等、両立する上で、周囲の理解が得にくく、両立が難しかったので辞めた」、「解雇された、退職勧奨された」という意見は多く存在します。ニッセイエプロに在職し、その後、出産・育児休暇を経て、職場に復帰された方より「休暇を利用する際に周囲は自然に受け入れてくれた」、「職場復帰後も育児と仕事が可能であるように話し合いを行い、勤務時間を融通して下さった」とのコメントがありました。これらの意見からは、休暇制度等に加えて女性の活躍を応援する風土を垣間見ることが出来ました。

反面「仕事に復帰しても、同じように仕事をするのは難しい」、「女性が産休育休を取っても戻ってきている人が少ない」との意見もありました。

厚労省では、男女労働者の間に生じている場合、このような差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取り組みとして「ポジティブアクション（女性社員の活躍推進）」を提唱しています。インタビューの結果、ニッセイエプロでは多くの女性が働きやすい職場だということを実感されていました。男性社員や女性社員共に、気兼ねなく交流ができるそうです。しかし、女性社員の割合が少ないので、今後は女性人材の確保も重要なテーマになってくるとの声もありました。

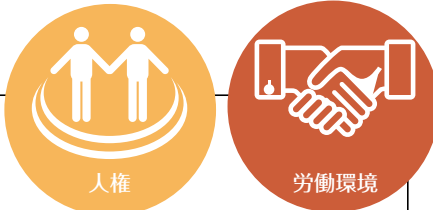
給与や評価に差を感じたことがなく、社員全員が平等に扱われているというのが一致した意見でした。職能をしっかりと評価する体制が、そのような意見につながったのだと考えられます。

「もっと女性を活かす方針を出して欲しい」「女性のセンスがほしい」という案件は結構ある」とのコメントもありました。



社内公募により決定した
70周年記念のキャラクター「えぶろう」は
女性社員の案が採用された。

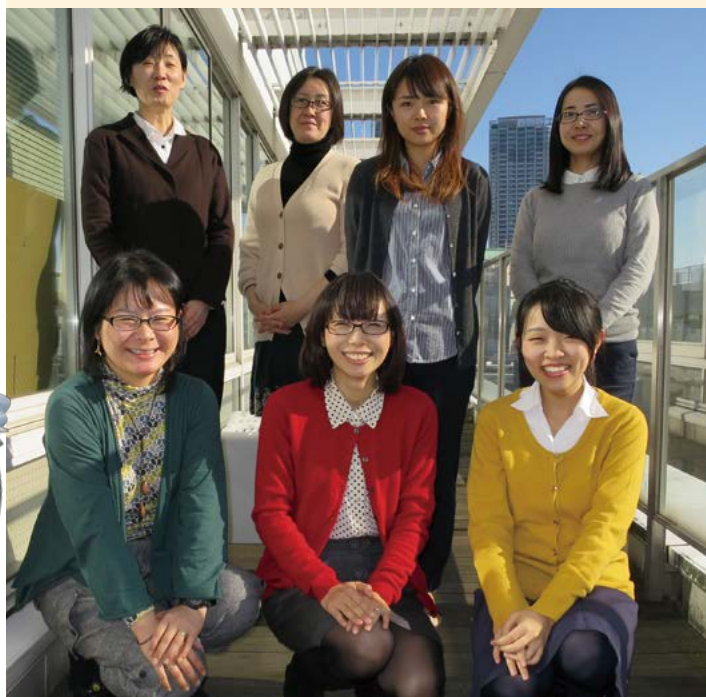
その2 (聞き手・文) 石川
対話 インタビュー



女性社員の声



創業70周年記念のコンテンツは女性社員の貢献が大きい。
左) 贈答用「新橋色柄手ぬぐい」 右) ホームページスペシャルコンテンツ



アニバーサリー
キャンディー



石川@ishikawa

実際に社会人として活躍していらっしゃる方がたにお話を伺うのは、学生の私にとっては非常に新鮮で貴重な体験となりました。この機会を与えて下さったニッセイエプロの方が、心から感謝申し上げます。

その1 (聞き手) 岡本
対話 インタビュー



遵守から信頼へ。 決めたルールを自分が遵守。

私たちは「法・社会規範を遵守する」一人であるためにも身近な常識的行動こそコンプライアンスの基本と考え、「顧客・協力会社」「社員」「会社」との各関係に至るまで全社員が意識し、取組んでおります。

企業行動基準21項目のうち各部署で働く社員は、どの項目を特に重視して働いているのか、また今後に向けた思いなどについてインタビューを行いました。

項目3
環境保全の努力

印刷業務を行うと、燃えるごみや不燃物など様々なごみが出ます。よって分別、再利用、委託会社に適切な処理をお願いするなど、環境保全に努めております。また、職場環境をきれいに保つという、クリーンオフィスも意識しています。これらについては、十分にできていると思いますが、今後さらに印刷技術をはじめ、ごみの効率的で環境に良い処理などが普及される際には、それに適応できるように努力していきたいと思っています。



項目6
優れた製品・サービスの提供

より良い製品・サービスをお客様に提供するためには何が必要か、ということに常に意識して業務を行っています。自分が担当している業務内容に関わる業界の傾向や流行、お客様が気にしていることなどをいち早く把握し、そのニーズに応えることができるように日頃から勉強することを心掛けています。当社が提供できる製品・サービスがお客様の課題解決の助けになれるよう、お客様のニーズに合った最適な提案ができるようにこれからも努力していきたいと思っています。

項目8
機密情報の取扱い

Web制作やシステム開発では、お客様の個人情報を取り扱うことが多いので、情報の取扱いには細心の注意を払って業務を行っています。又、製品・サービスのセキュリティに脆弱性があると、様々なトラブルの原因になってしまいますので、そのような事態にならないようWeb制作やシステム開発は念入りに行っております。製品・サービスを実際に使用のお客様があまり意識しないような製品・サービスの中身や裏側の部分も常に意識し、お客様に良い品質の製品・サービスを提供できるよう、私たちは取り組んでいます。

項目7
顧客・協力会社等との適正取引

製品を送送する業務では、お客様や各企業様の支店・営業所に送送することがあるので、お客様から送付リストを受け取ることがあります。それは勿論、個人情報にあたりますので、協力会社には依頼をする際には、情報の流失などが無いように書類を取り交わして細心の注意を払って作業するようにお願いをしています。書類を取り交わすことによつて、情報の取扱いに関する約束・確認をするだけでなく、お互いのより良い信頼関係を築くことも意識しております。

項目17
適正な会計処理

販売管理業務では主に、受注・請求処理・売上処理・入金処理などを行っています。この業務では、万が一、金額や数値などの入力ミスが起こると、お客様と当社の担当者に迷惑をかけてしまいますので、そのような事態にならないように慎重に確認して業務を行っています。

また、今後の取組みとしては、現在使用しているシステム・ソフトは十分に機能していますが、今後はこれまで以上に効率良く確認・管理ができる方法を目指したいと思っています。



岡本@okamoto

様々な部署の社員の方がたに、業務内容や仕事にかけた思いなどについてお聞きすることができ、大変勉強になりました。各社員の方がたは企業行動基準を守ることに加え、今後さらなるステップアップのために何が必要なのか、お考えになっていて感服致しました。

複数のマネジメントシステム運用による課題

当社は現在ISO14001(環境マネジメントシステム)、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)、プライバシーマーク(「JIS Q 15001:2006をベースにした個人情報保護マネジメントシステム」)を認証取得しています。又、現在ISO9001を参考に自社独自の品質マネジメントシステムを構築中です。

そして今後に向けて、これら複数のマネジメントシステムを1つに統合し、組織の中で有効に運用することを目指しています。

マネジメントシステムの統合とは

それぞれのマネジメントシステムは、いずれもトップの方針を組織内に徹底し、その方針に従って社員自らが活動するしくみであることを適合条件としています。マネジメントシステムの基本構成はP(計画)D(実施)C(確認)A(改善)のプロセスに従っています。

よってマネジメントシステムを構成する要素(体制・スケジュール・文書/様式・ルールなど)を統合し、ひとつの経営の仕組みとして運用すると前述の課題も解決することができます。

特に私たちのような人的リソース等が不足する中小企業においては現場への負担が軽減でき、コストの削減も可能になります。

今までの各マネジメントシステム別に比較すると、同じISO規格にも関わらず要求内容は統一されていませんでした。また、規格そのものの構造もマネジメントシステムごとで異なっていました。近年、ISOの要求事項改訂によって各マネジメントシステムの基本構造、用語や定義の整合化が右表の内容に改訂されてきています。

そこで、例えばマネジメントシステムの共通しているところは共通規定で、他の規程は環境、情報セキュリティ、個人情報保護、

現在の独立した各マネジメントシステムをそれぞれ運用するには、以下のような課題があります。

- 管理体制がいくつもある(責任所在が複雑で整理されていない)
- 文書・記録・様式の体系がいくつもある(各文書が類似・重複しており維持管理が大変)
- ISO 27001とISO14001などの間で矛盾がある(OA紙の裏紙使用…ISO 27001ではNG、ISO14001ではOK)
- 内部監査、審査が多い(各対応が煩雑)

品質というように個別に章立ててしまえば、四冊だったマニュアルも一冊にまとまります。さらに、共通したルール・手順や記録様式を統合することで維持運用の負担を減らすことが出来るようになります。

各マネジメントシステム規格の共通テキスト	
序文	7. 支援
1.適用範囲	7.1 資源
2.引用規格	7.2 力量
3.用語及び定義	7.3 認識
4.組織の状況	7.4 コミュニケーション
4.1 組織及びその状況の理解	7.5 文書化された情報
4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解	7.5.1 一般
4.3 XXXマネジメントシステムの適用範囲の決定	7.5.2 作成及び更新
4.4 XXXマネジメントシステム	7.5.3 文書化された情報の管理
5.リーダーシップ	8. 運用
5.1 リーダーシップ及びコミットメント	8.1 運用の計画及び管理
5.2 方針	9. パフォーマンス評価
5.3 組織の役割、責任及び権限	9.1 監視、測定、分析及び評価
6.計画	9.2 内部監査
6.1 リスク及び機会への取組み	9.3 マネジメントレビュー
6.2 XXX目的及びそれを達成するための計画策定	10. 改善
	10.1 不適合及び是正処置
	10.2 継続的改善

※『XXX～』には品質、環境、情報セキュリティ、食品安全など個々の規格のマネジメントが対象とする事項を意味する。

業務プロセスそのものが各マネジメントシステム

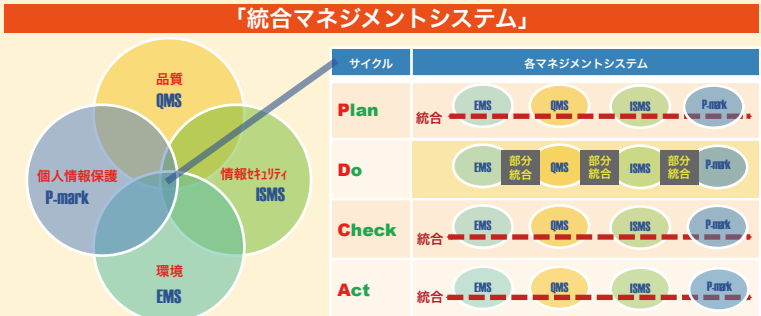
さらに実際の業務プロセスにISOの各マネジメントシステムで要求される内容を埋め込むことで「業務に役立たないばかりか、業務の足を引っ張りかねない(業務とISOの)二重システム」「業務から遊離したシステムの運用」と言った課題の解決にもつながります。

そして通常業務の遂行そのものが環境、情報セキュリティ、個人情報保護、品質を適正にマネジメントする仕組みとなれば、強力な業務ツールとなり、利益増大にもつながるものと考えています。

どのような統合マネジメントシステムを構築したとしても、それを運用する主体は社員一人ひとりです。

そして、これら業務プロセスと融合したマネジメントシステムを通して「社員ひとり一人が情報を共有し」「チーム力が強化されて」、最終的には「利益増大」へ結びつくことが望まれます。

その為には私たちは、ステークホルダー(社内・社外)とのコミュニケーションがカギとなると考えています。要求事項が改訂される各マネジメントシステムの共通内容では、



個別から統合で。

統合マネジメントシステムの運用へ。



対話

その3 (聞き手) 宮本、岡本
インタビュー

リサイクル石鹼

リサイクル石鹼とは、使用済みの食用油を回収、精製し、それから品質の良い石鹼へリサイクルされたものです。廃食用油特有の臭いもほとんどなく、泡立ちの良い石鹼です。手肌にやさしいのでお子様や敏感肌の方にもお使いいただけます。

当社はエスケー石鹼株式会社様の環境配慮、環境貢献製品を環境コミュニケーションの情報発信素材として、お客様に提案しています。今回は、リサイクル石鹼を生産しているエスケー石鹼株式会社様の立花様、営業部・滝沢様にお話を伺いました。



前列左 立花常務

前列右 滝沢主任

石鹼は毎日使うものです。我々の望みは、環境負荷の少ないリサイクル石鹼の意義を理解していただき、環境に優しい石鹼が当たり前のように使われる社会にしていきたいと考えています。(滝沢主任)

ニッセイエプロとエスケー石鹼の関係は、4年前に行われた環境展にて、ニッセイエプロが我々のリサイクル石鹼への取組みに興味を持っていたことがきっかけです。今ではビジネスパートナーとして、リサイクル石鹼の紹介や、商材として使っていたいております。貴社は環境への取組みをビジネスとして取組んでいる素晴らしい会社です。今後もしリサイクル石鹼と共に、環境負荷の少ない社会の構築を目指し、良きパートナーとして共に歩んでいきたいです。(立花常務)

Interview
インタビュー



ストーンペーパー

ストーンペーパーは石から出来た紙であり、その為、本来紙の原料である木を必要としません。また、原料が石灰石なので水に強く、破れにくい画期的な新素材として注目されつつあります。

当社では、いち早くこのストーンペーパーに注目し、商材への可能性を追求しています。担当営業は自らが名刺にストーンペーパーを使用し、「環境」を切り口に、お客様へ提案する営業を行っています。

単なる「環境性」だけでなく「機能性」が大事

名刺をお客様に渡したときに、感触が違うことに気づいてもらえるので、「環境」を切り口に営業をすることが出来ます。実際に渡した名刺がきっかけで、お客様もストーンペーパーの名刺を要望された、という実績もあります。そして、そこからお客様との関係が深まり、他の案件への要望につながったというケースもあります。ストーンペーパーは環境に優しい商材といえますが、通常の紙よりコストが高という面もあります。よって「環境に優しい」といった切り口のみではお客様に十分満足いただけない場合があります。そこで「環境性」に加えて、ストーンペーパーは水にぬれても破れず、冷たいところでも形状を保つ、という「機能性」の高い製品であるということに着目し、その機能性を決め手にお客様に提案しています。



破れにくい事をアピールする
ニッセイエプロ
鈴木営業統括



Interview
インタビュー

ISO14001 環境目標項目	目標値	69期実績
ICTソリューション・サービスによる売上 (ICTサービスによる業務改善、効率化→省資源・省力化等 支援)	前年度比110%増	106.4%
CSRコミュニケーション・サービスの受注件数 (環境・CSR報告書、環境配慮・貢献商材等)	前年度比130%増	223.1%
自社廃棄物のリサイクル率向上(ごみ分別・減量)	67%	64%



宮本@miyamoto

エスケー石鹼様では実際に工場を見学させていただき、リサイクル石鹼の製造からその歴史まで詳しくお話を聞くことが出来ました。貴重なお話、誠にありがとうございました！



自分が会社を背負っている

●小菅 まずは新入社員の方がたにお伺いしたいのですが、社員の皆様や社外の方がた等、世代の違う方たちとのコミュニケーションのとり方の違いはありますか？

●兼高 僕が所属している部署が社内が一番平均年齢が高いです。みんな僕のことを可愛いがる感じで、いじってきます。それに対してちゃんとツツコミを入れてあげると、そこで笑いが起こるのでそんな感じで社内ではコミュニケーションをとっています。だから気を付けていることと言えばちゃんとツツコミを入れることですかね笑。

●諸橋 私は学生の時とたいして変わらないですね。もともと人見知りをするようなタイプではなかったのですが、もちろんお客様の前では緊張しますが、仲間だと思つたらすぐに打ち解けられますね。

●村松 学生のころというのはあまり目上の方たちと話す機会が少なく、話すといつても親や教授くらいでしたが、今こうして同じ空間で長い時間一緒に居ても全く困ることなく自然体で過していると思います。

●城戸 とても意外でした。もつとはつきりとした違いがあるのだと思っていました。

●亀田 そうですね。皆さんとても自然体にな仕事ができているんですね。そこまで気をすり減らしているわけでもないですし、逆にベテランの方がたが、そのような雰囲気を作ってくださっているからこそ、新入社員の3人もスムーズに入って来られたと思います。それが当社の良いところだと感じますね。

●小菅 では、続いて常務にお聞きしたいので

てしまい、会話が途切れてしまいます。そういうこともあるので、相手をよく知ること、大前提に自分から知ろうとすることがとても大事だと思います。

●亀田 そういえばお客様のところへ行く前、よく調べていますよね。

●村松 そうですね。「調べる」癖をつけるようにしています。

●亀田 今は簡単にインターネットで調べられますからね。会社のホームページを見ればある程度の基礎情報についているのは記載されています。それに商談の前に事前準備という意味でもこれは必要なことですから、日頃から「調べる癖」をつけることは大切です。

●小菅 事前準備という言葉が出たのでお尋ねします。週回数回常務と新入社員のお三方計4名で朝早くに集まって日本経済新聞の読み合わせを行っているのですね？またどのような場面で役立ったのかお聞かせください。

●亀田 まだ始めて間もないですが、新聞を読む習慣をつけさせたかったので決まった時間に集まって各々自由に読んでいるという感じですかね。

●兼高 僕はありましたよ。読んで二日目くらいに自分の担当している仕事について、その情報を詳しくまとめた冊子を出したという記事を見つけた。そして、その日のうちに入手することができました。そのことがとても役に立ったところですね。

●亀田 そうですね。その時、すぐ先輩たち



すが、社会人として企業に入社した当初、印象に残っていること等は、ございますか？

●亀田 今から10年前ですかね。私はずっと営業職をやっていたので、1年目の頃からお客さんとバシバシやり取りさせていただいたり、社内の調整などいろんなことをさせてもらっていたので、さまざまの方がたと関わりがありました。そこで今でも教訓にしていることというところ、お客様のところに行く時は個人としてではなく、会社の代表として行っているのだと強く思うようにしています。

「〇〇が来た」のではなく「〇〇会社が来た」と認識されるので

自身が会社を背負っていることを改めて感じ、身を引き締めるように気を付けています。

●城戸 常務のお話を伺って、一人ひとりにかかってくる責任感や立場は学生のころとだいぶ違ってくるのだと感じました。大変参考になります。



常に「調べる癖」をつけよう

●諸橋 私はお客様に対しては、もちろん丁寧に対応していますが、協力会社に対しても丁寧な対応を心がけています。協力会社にとって当社は発注する側であり、時には無理な要求をしなければならぬときもありますが、せつかく一緒に仕事をしていくので、お互い気持ち良く

に褒められていましたね。「アンテナ高いな」と。はい。とても褒めていただきました。あと目上の人と話すときに時事ネタって、ものすごくトークテーマにしやすいですね。

●小菅 始めて数週間でもこんなにも早い段階で成果が出るというのは本当に素晴らしいと思います。

●諸橋 私はまだ自分の仕事に直接的に関わってくる記事はなかったのですが、同じ部署の先輩が担当しているお客様の記事を見つけて読んでいたことがあります。お客様と話題を共有できるくらいの理解をしていきたいと思いましたね。

●村松 僕は普段あまり新聞を読む方ではなかったのですが、新聞って読みやすいんだっていうのが一番意外でしたね。お客様に共通する記事も何度か出てきているので、そこでどうやって話をもっていくかというのが重要だと思いました。

●城戸 お三方とも個々の課題をすでに見つけていて、新聞は社会人の必需品なのだと感じました。

創業100年に向けてイノベーションを起こそう

●諸橋 小さなことですが、毎日ミスをしてその度に上司の手を煩わせているので、それをまず少なくしていきたいなと思っています。あとコミュニケーションですね。各階ごとに部署があるのですが、そのフロア内の連携は取れていても、別のフロアの人たちとはまだ上手く連携が取れていない状態です。別のフロアの方たちとももっとコミュニケーションをとっていききたいと思っています。

●兼高 僕は自分の所属している部署の部長がとても稼ぐ人なので、部長と同じ年齢になっ

やつていきたいと思っています。

●亀田 構え過ぎないというスタイルはとても大切なことですね。相手が協力会社だからとか、取引会社だからといって態度を変えることは相手側にも伝わってしまうものですね。逆にギクシャクしてしまう原因になるかもしれないですね。

●兼高 これは僕に足りない部分ですが、ちゃんと一つずつ丁寧に尚且つ無駄な話をべらべらとしないことが大切だと気づきました。あと自分が思っている以上に早口になってしまうことが多いので「ゆっくり丁寧」を心がけたいと思います。やはり緊張するとつい早口になりがちですね。

●亀田 私はそれを10年以上悩み続けています。でも、やはり早口になることによって相手にも緊張とか伝わっちゃいますからね。だから「いかに自然体で話せるか」だと思いますね。

●兼高 でも自分が思っていることを100%相手に伝えるって難しいですね。電話だと声だけで話を進めていかなきゃいけないので、更に難しいです。

●城戸 私はインターンシップに行っていたときに営業先に電話をかけた時、新人だと相手に気づかれてしまいました。どのように話したら良いのか、まだつかめていませんね。

●諸橋 村松君、例の自慢のスキルを教えてくださいませんか？

●村松 ハードルを上げるのはやめてくださいよ(笑)。でも僕も習得したい部分でいうと、「相手をはじめ、色々なことを自らが知ろう」ということですね。商談の時に時間が余ったり、会話中に間がもたなかつたりしたときに、気を使ってお客様から話を振ってくださいます。しかし、業界用語もあり、話が分からなくなっ



たとき、その人より稼げる人になりたいです。その頃には僕にも部下ができていてと思うので、その部下には僕よりさらに稼げる人に育てていきたいなと思います。

●小菅 上司の方を目標にし、超えていきたいと思う気持ちから、とても良い職場環境なのだと感じました。

●村松 僕はまだ上司や先輩のお客様を引き継いでいるのですが、ゆくゆくは自分で新規のお客様を開拓して、目標を達成したいと思っています。でも、それは到着地点ではなく通過地点として考えておりますね。

●城戸 就職を控える私たちにとっても、とても貴重な話が伺えてとても参考になりました。●亀田 創業100年だと30年後、私の年齢でいうと60歳ですね。つまりは今の社長と同じくらいの年齢になります。

今後はさらに、特に社員がやりたい、実現したいと思ったことについては突拍子のないことでも良いと思います。根拠があつて、熱い想いがあつて、それがビジネスになり得る可能性があるのであれば私は反対する気もありません。むしろ全力でサポートしていきたいと思っています。

これからの30年でも又、これまでの70年同様、皆様とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思っています。そして若いパワーで次の創業100年に向けて、イノベーションを起こして行きましょう。



小菅@kosuge

上司を超えることが目標とはっきり答えた新入社員の方がたや、常務の社員に対する気持ちや創業100年に向けてのお考えも素晴らしい、とても良い環境でお仕事ができているのだと感じました。私もこの様な成長できる職場に就職していきたいと強く思いました。



城戸@kido

普段なかなか聞くことができない社会人の方がたの生の声を聞くことができ、とても良い刺激を頂きました。また、新入社員の方とは2、3歳しか違わないにも関わらずわたしたち学生と心構えや雰囲気が違うなと思いました。今回の経験や聞かせて頂いたお話を生かして学生生活を送っていきたいです。

武蔵野大学 ECO REPORT WAY 21のメンバーからの評価

評価者

ECO RREPORT WAY 21 プロジェクトメンバー
(本冊子企画メンバー以外)

評価基準





3・2・1の3段階
3ーとても十分である
2ー十分である
1ー十分でない

評価方法

評価者はグローバルコンパクトの4項目10の原則に沿って冊子の内容に
1〜3で評価、合わせてコメントする。

実施方法

上記の評価とコメントを集計し、平均点を評価の欄に表記する。
コメントは「好感を抱く点」と「改善を望む点」の2つに分けて欄に記載する。

	評価	コメント（好感を抱く点 / 改善を望む点）	本冊子 記載ページ
 人 権	1.8	●業種柄、情報の管理に気を使っていることが読み取れる。	8ページ
		●男女よりさらに小さく、企業倫理規範にもあるように、個人の尊重についての取組みや、職場での雰囲気などの記載があると良い。	9ページ
 労働基準	2.2	●社員のコメントから、女性の働きやすい職場づくりがなされていることが読み取れる。	9ページ
		●社員の声を意識しすぎて、活動内容が伝わらない。	
 環 境	2.4	●エスケー石炭への取材だけではなく、社長インタビューからも会社の環境への意識が高いことが読み取れる。	10ページ
		●具体的な数値や効果がさらに示されていれば、取組みの効果がより伝わると思う。	
 腐敗防止	2.4	●法令遵守のために基本的に忠実な姿勢を守ること誠実な印象を受けた。	8ページ
		●組織体制図の記載がないので、あれば記載してほしい。	
まとめ		●全体的にインタビューが多いので、社員の様子やステークホルダーを大切にしていることがよく読み取れた。 ●特集1において創業100周年を目標に掲げられている記事を読み、さらなる“Next Innovation”を追求する姿勢を感じた。	

【COP】編集後記

武蔵野大学
MUSASHINO UNIVERSITY

石川 裕樹 (3年)

学生である私が企画を考え、インタビューを行い、原稿を作成し冊子として発刊する。こういった一連の作業、しかも企業のCSR報告書作成に私が携われることなど、考えたこともありませんでした。とても大変でしたが、この度は社会について学ぶだけでなく、自分自身について今一度見つめ直すことが出来ました。私は現在3年生であり、自分の将来を決定する重要な時期にあります。ここで得た経験を活かし、悔いの残らない選択をしていきたいと思っております。

小書 晴生 (2年)

特集1、2で社長、常務、新入社員の方々にインタビューし、企業の生の声を聞くという経験は自身の成長に大きくつながったと思います。またCSR報告書の作成あたり、自分の未熟さを痛感しましたが、得られたものはかなり多く、失敗も前向きに捉えることができたので充実した日々となりました。今後COPで学んだことはさまざまなことに役立っていくと思います。

城戸 愛美 (2年)

今年度初めてのプロジェクトに参加させていただきました。CSR報告書を製作するという貴重な体験をさせていただくことができたこと、大変嬉しく思っております。今回は先輩方に助けられてここまで来ることができました。また、わたしは特集ページで社長にインタビューさせていただいたのですが、社長という方と直接話すことが初めてだったので、すごく緊張しました。

副リーダー 宮本 咲 (3年)

私がCOPプロジェクトに携わらせていただくのは、今回で2回目となりました。昨年の報告書とは大きく変わった部分や去年の反省も活かして、今年はより魅力的な冊子を作ることができたと思います。リーダーの岡本さんと協力して新メンバー3人と取組んだ時間はかけがえのないものであり、学生という身分でありながらこのプロジェクトに2度も参加できたことに、感謝の気持ちでいっぱい입니다。今後はこの経験をもちに、新しいことに挑戦していきたいと思っています。

リーダー 岡本 梨沙 (3年)

昨年度より引き継ぎ冊子の作成に携わらせていただき、このような貴重な活動に参加できたことに大変感謝しております。今年度はリーダーを務めさせていただき、自分の担当範囲のみならず、冊子全体も確認して調整するという総括的な視点で物事を考える力が身に付き、自分自身の成長につながったと実感しております。そして、様々な人の活動ができるのだということに改めて感じました。今後はこの経験を活かして何事にも取組んでいきたいと思っております。

『価値共創』ステークホルダーとの協働へ



ニッセイエプロ株式会社
事業推進管理室
「Eblo Report」
プロジェクト担当
伊関 直人

毎年、大学生との協働により企画・編集してきました社会的責任活動の報告書「Eblo Report」も皆様のご支援、ご協力を頂き、ここに5回目の発行となりました。

2010年創刊時より、「読む報告書より、使う報告書へ」を制作コンセプトにスタート。前号のEblo Report 2013は、この一年間、当社のステークホルダーの皆様へ直接、約1,000冊配布し、活用することが出来ました。

Eblo Reportは当社における広報ツール、営業ツール、社内教育ツール、社内報、そして最近では新卒採用ツールや大学授業での参考資料として、様々なステークホルダーの皆様よりご評価いただいています。

又、プロジェクトの現場においては、学生にとって「日頃、インターンシップでも経験することができない貴重な就業体験」として大変に好評です。そして、私たちにとって何より嬉しいことは「自分の将来を描くきっかけとなった」「プロジェクトで経験したことが就職活動にとても役立った」「実際にこの取組みが自身の強みとなり、希望の就職先に内定を頂いた」等の喜びの声を多く頂いていることです。

これからも私たちの生業である「コミュニケーション」をキーワードに、社会貢献からソーシャルビジネスへとイノベーションを起こすべく取組んでいきます。



特定非営利活動法人
サステナビリティ
創造研究学会
理事長
山田 勝己

プロフィール

CEAR登録環境主任審査員(B13567) / 法政大学大学院環境マネジメント研究科修了(修士:環境マネジメント) / 武蔵野大学非常勤講師 / 成蹊大学非常勤講師(科目:環境セミナー) / 千代田区 千代田エコシステム(CES)推進協議会 総括監査員
【主な著書】長沢伸也編著、環境マーケティングプロジェクト共著、「環境ビジネスの挑戦」(環境新聞社)



取引先
一般社団法人 日本時計学会
三浦 敦子 様

ニッセイさんとは1972年からのつきあひ。もうかれこれ42年になります。学会誌の編集の事務委託をお願いしたり、国際会議の事務局をおお願いいただいたりという便宜をはかっていただきたりという便意をさせていただきまして。又、原稿の入稿期日など通りいっぺんではなく作業の状況を把握しながら細かく配慮してくださったことが印刷を頼む方としては大変助かりました。クライアントとのより良い信頼関係を築いて、ますますの発展をお祈りいたします。



協力会社 日経印刷株式会社
第二営業部
柿沼 英俊 様

貴社のご担当者の親しみやすさ、時に厳しいご指導、そして印刷に関する知識の豊富さという点が特徴に挙げられます。貴社の営業を担当する者にとっては自分を育ててくれる最高のお客様として引き継がれてきました。お客様様の要望等の声を「正しいことば」に変え、正しく伝えることのできる会社だと確信しております。永年のお付き合いの中で育ませていただきました数々の営業及び製造ノウハウを今後とも最大限発揮してご支援申し上げます。



OB
ニッセイエプロ株式会社
高橋 秋男 様

私は昭和45年4月に入社し、平成9年まで27年間在職していました。制作部購買課時代、私は仕入れ業者及び協力会社に価格交渉を行い、コストダウンを達成したことが思い出として残っています。在職中の27年間色々な職種を経験できたことが退職後の自分に非常にプラスになったと思っています。優秀な人材が多く、今日まで築いたノウハウを活かし、更なる成長を期待しています。



学生OB
Eblo Report 2011, 2012メンバー
高木 健 様

学生時代の約3年間、本Eblo Reportの協働制作プロジェクトおよびECO REPORT WAY 21(企業のCSR報告書評価)の活動を通しての世話になりました。貴社は「所詮学生だから」といった偏見をもたず、真剣に協働する姿勢をもって下さったことを覚えております。以前、亀田社長が仰いました「事業とは奉仕である。」という考えを今後も社内内で共有し、社会やお客様に貢献する事業活動を続けていきたいと思います。



OB
ニッセイエプロ株式会社
井田 祥治 様

私が入社したのは、昭和26年です。日本もようやく戦後の復興に向かって走り始めた頃と思います。社員も若い人が多く、昼は会社、夜は大学、そして学生運動等。まるで梁山泊の如くでエネルギーに満ちた時代が思い出です。「継続は力なり」と申しますが、ニッセイズム、亀田イズムで今後とも発展されます様、期待しております。



教育機関
武蔵野大学環境学部 教授
矢内 秋生 様

目先の売り上げ利益や景気判断ばかりに目が行く傾向のある昨今、中長期的な企業活動をされていると思います。大学生の思考を真摯に受け止めてくださるスタッフのいらっしゃる企業様だと思います。学生を参加させてくださっていることから、若い世代の育成に理解をもっていて下さっているところが、他社との違いだと思います。また、これからは規模より、質がものをいう時代だと思いますので、貴社の今後の展開が楽しみです。

第三者意見 Innovation(革新)を超えたEvolution(進化)

Eblo Report 2014は、「Next Innovation」新たな価値創造を目指して」を編集方針として、武蔵野大学の学生と協働で作成され5年目を迎えました。今回のEblo Reportで目を引くのは、Communicationという言葉です。亀田社長、亀田常務をはじめとし、社員およびOB、協力会社、取引先からも上がってきています。ステークホルダーからの声を聞き、常にInnovation(革新)を起こし価値を創造している企業姿勢は、「新たな価値の創造を企業風土へEvolution(進化)」させていると言っても良いと思います。

今後、統合マネジメントシステムの確立により、「Next Innovation」新たな価値の創造を目指して」が、どの様に具現化され、PDCAによって運用管理されていくかが課題

となります。その第1歩としては、次年度から「武蔵野大学ECO REPORT WAY21のメンバーからの評価」の改善を望む点について、どの様にと取組んで改善したかを記述することが必要と思われます。また、武蔵野大学の学生メンバーの評価基準に、改善状況を追加することで、PDCAサイクルが回り評価の重要度が高くなるでしょう。

最後になりましたが、ニッセイエプロ株式会社は2014年に、創業70周年を迎えました。そして、統合マネジメントシステムという管理手法を確立されつつあります。

創業100年を目指して、「Innovation(革新)を超えたEvolution(進化)」に発展されることに、大いに期待したいと思います。

対話から協働へ。
ステークホルダーの皆様よりエール。

ニッセイエプロは事業内容から見ても、今まで以上にステークホルダーのさまざまな期待や要請を対話を通じて理解し、企業活動に活かしていきます。さらに対話から、協働して課題解決における最良のパートナーを目指します。

会社概要

商 号	ニッセイエブロ株式会社 [英文表記/ NISSEI EBLO INC.]
設 立	1950 年 2 月 (創業/ 1944 年 6 月)
資 本 金	9,000 万円
代 表 者	代表取締役社長 亀田 修平
従 業 員 数	46 名
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報 PR、広告宣伝、販売促進 ● 企画・編集・デザイン・総合印刷 ● イベント・展示会等 企画運営 ● Web 企画制作・システム開発 ● 映像企画制作 ● 文書管理・情報管理
事 業 所	本社 〒105-0004 東京都港区新橋 5-20-4
主要取引銀行	みずほ銀行 三菱東京 UFJ 銀行



70周年記念キャラクター「えぶろう」

ニッセイエブロ株式会社

Eblo Report 2014 Communication on Progress

～社会的責任活動の報告～

(対象期間: 2014年1月～2014年12月)

【連絡先】

グローバル・コンパクト推進委員会

E-mail : gc@eblo.co.jp

Phone : 03-5733-5151 Fax : 03-5733-5161



EMS 578222/ISO 14001:2004



IS 565077/ISO 27001:2013



16190122(05)



Network Japan
WE SUPPORT



NPO 法人
カラーユニバーサルデザイン機構
団体賛助会員